

2022年6月11日

「稲盛和夫研究会」第2回シンポジウム

「企業家活動とオーラルヒストリー」

8/6 Sat 14:00～17:30



I 開催：ハイブリッド開催（無料）

1. 会場参加（定員 50 名）

会場：京セラ「稲盛ライブラリー」8F セミナールーム
京都市伏見区竹田鳥羽殿町9番地

<https://www.kyocera.co.jp/company/csr/facility/inamori-library/access/index.html>

※ご希望の方には、稲盛ライブラリーをご見学いただけます（午前 10:30～）。

2. リモート参加

接続：お申込み受付後に、接続 URL をご連絡します。

II プログラム

開会挨拶 宮本又郎（「稲盛和夫研究会」会長 大阪大学名誉教授）

【第1部】企業家オーラルヒストリーの経験と考察（司会：沢井実）

報告① 宮本又郎（大阪大学名誉教授）

報告② 猪木武徳（大阪大学名誉教授）

報告③ 御厨貴（東京大学名誉教授）

報告者によるディスカッション

【第2部】オーラルヒストリーの進め方（司会：梅崎修）

報告① 中島裕喜（南山大学教授）

報告② 佐藤悌二郎（PHP 研究所客員）

報告③ 梅崎修（法政大学教授）

報告者によるディスカッション

閉会挨拶 沢井実（「稲盛和夫研究会」副会長、大阪大学名誉教授）

=====
参加申込み：下記 URL にアクセスし、フォーマットからお申し込み下さい

<https://forms.office.com/r/wZNLuEh4jh>

問合せ先：「稲盛和夫研究会」事務局（稲盛ライブラリー研究・出版課 粕谷/井上）

TEL075-604-3590

masashi.kasuya.cy@kyocera.jp

tomokazu.inoue.xm@kyocera.jp

「稲盛和夫研究会」第2回シンポジウム

「稲盛和夫研究会」について -2020年8月第1回研究会 挨拶から抜粋-

「稲盛ライブラリーは、稲盛和夫の思想の継承と啓蒙にあたることを使命としており、稲盛和夫に関するあらゆる資料を保管している。それらには経営資料のみならず、思想・哲学に関するもの、また盛和塾に関する膨大な資料などさまざまなものが含まれているが、一人稲盛個人あるいは京セラ社のために秘蔵すべきものでなく、広く社会で活用されるべきものだと考えている。そのためには、これらの資料を学術的見地からシステムティックに分類・整理し、管理しなければならないと考えている。また、稲盛ライブラリーでは、単に資料を保管するだけではなく、日本経営史のなかで、稲盛和夫という企業家を正しく位置づけることが必要であると考えている。稲盛和夫に関しては、もちろんこれまでにアカデミックな研究、小説、論評など様々なものがあるが、資料が全面的には公開されていないこともあって、稲盛の経営哲学、経営手法などについての学術研究はまだまだ不十分である。そのために、このようなアカデミックな稲盛和夫研究を将来にわたってサポートする研究者組織を立ち上げたい」

私はこのような稲盛ライブラリーからのご相談を受け、たいへん感銘いたしました。稲盛和夫さんは昭和・平成時代はもちろん、日本の企業家の歴史に燦然と輝く存在であり、いま最も世界的に著名な日本の企業家であります。このような方が、ご自分の資料を広く社会に公開し、学術的分析・研究に供したいとされたのは大変な英断であります。

私は、日本経済史・日本経営史を専門分野としておりますが、申し訳ないことながら、稲盛和夫さんや京セラさんについて、自らは研究したことがありません。したがって、私には世話役は荷が重すぎると思いましたが、企業経営、あるいは経営史のアカデミックサークルにとってはまたとない有り難いお申し出であるので、微力を顧みず、世話役をお受けした次第であります。

その後、何度か、稲盛ライブラリーさんと相談させて頂き、3本柱をたてて、研究会を組織、運営して行こうということになりました。

①アーカイブ研究、②経営活動研究、③経営哲学研究、この3つについて、それぞれ世話役の先生をお願いした方がよからうと考え、経営活動研究については南山大学の沢井実先生、経営哲学研究については一橋大学の田中一弘先生をお願いし、アーカイブ研究については私が担当することにいたしました。

「稲盛和夫研究会」会長 大阪大学名誉教授 宮本又郎

このたび発足する「稲盛和夫研究会」が、私が残してきた膨大な経営資料を、経営学はじめ幅広い学術分野で研究にあたる先生方の手で、広く社会に資するよう、活用いただきますなら誠に幸いに存じます。

可能な限り私の残した資料に触れていただき、私の経営の考え方、また具体的な経営手法を、学術的に研究、分析いただきたいと思っております。それが、私が半世紀以上にわたり取り組んでまいりました経営を、個人の「奇跡」ではなく、経営に携わる全ての人々が活かすことができる「原理原則」とすることになるものと信じています。

京セラ名誉会長 稲盛和夫